

## 2015年3月の金融経済概況のポイント

—— 主に2月の景気指標やヒアリングをもとに判断しました

### ■景気の基調判断

- 項目別では、全体的に好調であった観光の判断を上げましたが、個人消費を始め、他の項目は前月と大きく変わっていないことから、景気について「基調的には持ち直している」との判断を据え置きました。
  - 昨年11月にトーンダウン（下方修正）して以降、「基調的には持ち直している」の判断を据え置いています。
  - 観光の判断の前月との比較は次の通りです。
    - （前月）地域によって入込客のばらつきがみられるが、外国人観光客に支えられて底堅い動きが続いている
    - （今月）外国人観光客に支えられて好調となっている

### ■個人消費の動向

- 2月の大型店売上高は、引続き前年割れ（▲2.7%）となっていますが、前年の2月は消費税率引き上げ前の駆け込み需要が始まっていた時期で、売上が増えていましたので、割り引いてみる必要があります。前年の駆け込み需要が本格化したのは3月でしたが、2月から既に始まっていました。
  - 因みに、2月の大型店売上高の前々年比は+1.7%となります。
- 食料品でも惣菜や生鮮食品は好調ですが、調味料や米、酒などの売れ行きは鈍いといった具合に品目によって売れ行きの好不調が分かれているほか、暖冬による影響も、衣料品の売上などでプラス、マイナス両面がみられるなど、全体としてみれば、個人消費は未だしっかりと回復しているとは言えない状況です。

### ▼大型店売上高

						—— 前年比、%	
14/1月	2月	3月	4~6月	7~9月	10~12月	15/1月	2月
+0.0	+4.6	+14.4	▲4.0	▲0.7	▲2.5	▲0.6	▲2.7

## ■観光の動向

- 2月の観光は、①春節を利用した中華圏の観光客を始め、インバウンド（訪日外国人旅行者）が一段と増加したことに加え、②旭川冬まつり、層雲峡氷瀑まつり、スノーボード・ワールドカップなどの各種イベント開催による集客効果が高まったことから、各地で2月としては例年になく賑わいとなりました。

### ▼主なイベントの人出

旭川冬まつり	層雲峡氷瀑まつり	スノーボード・W杯
2/6～11日	1/24～3/29日	2/28日、3/1日
88.6万人	14.2万人（3/17日現在）	1.3万人

- これらに加えて、旭川駅前再開発の関係などでのビジネス客も増加したことから、旭川地区の主要ホテルでは、客室稼働率が90%を超えたうえ、客室単価も前年を1割方上回った先が多かった状況です。

## ■今後のポイント

- 旭川周辺では、先日、東神楽で大型小売店が新たにオープンしたほか、旭川駅前での大型店オープンも間近に控えている一方、買物公園通りの既存店でも新規テナント出店、改装に加えて売り方の工夫も打ち出されています。こうした売る側の変化は、個人消費を喚起する要因として期待されます。また、新たな店舗には多くの人が集まることが期待され、人が集まる所では、ビジネスチャンスが生まれます（ある研究によれば、人口密度が2倍になると、サービス業の生産性は1割以上増えるということも言われています）。
- 4月になると、消費税率の引上げから丁度1年経過するので、同引上げが物価の前年比に与える影響はなくなり、物価の上昇率が低下します。このことが、消費者の心理に好影響を与えることも考えられます。
- また、4月1日公表予定の短観において、企業の来年度の事業計画の中で、どの程度の収益が見込まれているか、それを踏まえた賃金の改善が今後どれくらい期待できるのかといった点にも、注目していきたいと思います。

以上

